

神奈川県川崎市・桜本。
悩める在日コリアンの監督が会ったのは、
コリアンタウンのおばあちゃんたちでした。

いと 愛しきトラヂ

監督：全智愛
プロデューサー・録音：金川眞澄
撮影・編集：佐々木啓太

日本映画大学
日本 / 2016 / ビスタ / 37分
www.eiga.ac.jp/sotsusei

ここで、生きる。



在日コリアンの監督がカメラを向けた。 コリアンタウンの老人会・トラヂ会に、

神奈川県川崎市桜本、ここは日本川崎のコリアンタウン。監督の私（全智愛）が在日コリアンのための老人会（トラヂ会）に出会ったのは2014年10月のことだ。トラヂの中では一二を争う人気者の須田栄子（85）さんは、愛らしいお婆ちゃんだ。乳癌を煩い再発を恐れ、当時医療技術のある日本へ93年にきた。彼女の夫、須田十四穂（79）さんは体調面や精神面で彼女を支えている。日系ペルー人2世の大城正子（84）さんには家族がたくさんいる。彼女の生まれ育った国はペルーだ。彼女の母はペルー人、父は日本人、今では珍しくはないが正子さんの生まれた時代は珍しかったという。違う国で育ち、違う時代を歩んできた彼女たちと出会い、感じとったものは…。

国際化の深化が著しい今の日本で、50万人近くが暮らしていると言う在日コリアンの存在は大きい。戦前戦中に日本に渡ってきたオールドカマーが多くを占めるものの、韓国・日本両国の経済情勢の変化など様々な理由で近年になって渡航するニューカマーも少なくない。監督の全智愛（ジョン・チエ）もそのひとりだ。戦前戦中に渡ってきたオールドカマーからは、もう三世、四世目として五世の世代が活躍している。外国で生きること、それは常にそのアイデンティティの在り方を問われて続けているということだ。生活する国の習慣や文化に親しみ、その言語に習熟するとオリジナルであるはずの故

国のそれらからどんどん遠ざかってしまう。世代が重なれば故国そのものの実感が薄れ、アイデンティティは曖昧なものとなる。

このアイデンティティの揺らぎが監督である全智愛の本作へのモチーフとなる。映画大学に入学した際は村田智愛という通名を名乗り、休学して韓国の大学での韓国語研修を経、復学した際に本名を名乗るようになった。故国の言葉を磨くことによってコリアンとしての自覚が明確なものになったといえるだろう。本作の制作に先立って川崎のコリアンタウンを取材し始めたのは、オールドカマーのコリアンに接しながら自らのアイデンティティを再確認することを目的にしていたからだ。コリアンのコミュニティに入ってゆくことはそれほど困難ではなかった。同世代の三世四世との接点も切り開いていった。しかし彼女の心を動かしたのは、高齢になって来日し日本人と結婚した韓国女性と、同じく高齢の日系ペルー人女性であった。子供たちを故国に残しながら日本で暮らすことを決意した韓国女性、そして、日系とはいいながら、日本を知らずに育った日系ペルー人女性、それぞれにとっての故国とは何か？ その答えの複雑な背景に戸惑い、全は自らのルーツにも手を伸ばしてゆく。



愛しきトラヂ

ドキュメンタリー | 37分 | DCP

予告編

Facebookページ

CAST

李 栄子 (須田栄子)
須田十四穂
大城正子
尹 炳梅

福祉法人青丘社
トラヂ会の皆さん
ウリマダンの皆さん

朴 根恵
高 淑子
金 芳子

Rita Sofia
Doris Belinda
Sara Belinda

文 孝銘
金 振美
文 愛鈴

金 正姫
梅田由美

STAFF

監督：全 智愛
プロデューサー・録音：金川眞澄
撮影・編集：佐々木啓太

制作協力：
社会福祉法人青丘社
ほっとライン事務所
桜本保育園
ふれあい館
トラヂ会
ウリマダン
在日大韓基督教会 川崎教会
エルカボン（ペルー料理屋）
川崎つり幸
三浦知人
鈴木宏子
金 迅野
崔 允姫

資料提供：
川崎在日コリアン生活文化資料館
海外移住資料館
国家記録院（大韓民国）
広島市民局
島倉繁夫

